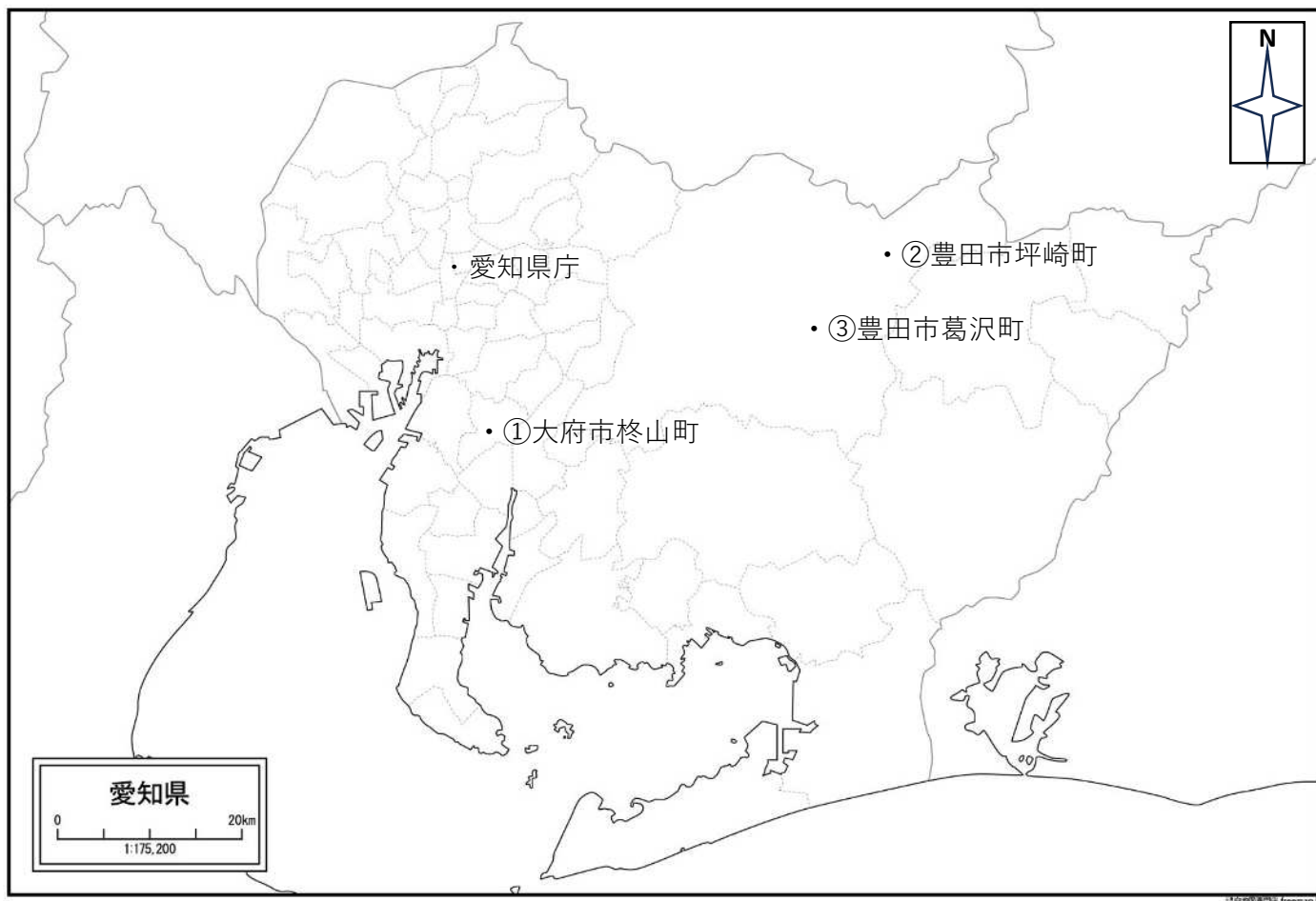


第2回あいち森と緑づくり委員会 事業地調査

日時 2024年11月11日（月）10：30～17：00

場所 大府市、豊田市



- ① 都市緑化推進事業地（大府市柊山町地内）
- ② 次世代森林育成事業地（豊田市坪崎町地内）
- ③ 人工林整備事業地（間伐）（豊田市葛沢町地内）

現地調査当日の写真

① 都市緑化推進事業地（大府市柁山町地内）



② 次世代森林育成事業地（豊田市坪崎町地内）



③ 人工林整備事業地(間伐)（豊田市葛沢町地内）



2024 年度 第2回 あいち森と緑づくり委員会 事業地調査による専門的助言

調査地① 都市緑化推進（身近な緑づくり）施工地（大府市）

意見等

- ・きれいに整備されていた。向かいの住宅と距離が近いので圧迫感があったと思う。地域の方たちの交流の場となり子供たちが安心して遊べる空間になると良いと思った。
- ・緑地は維持管理が必要。特にここは竹なので、1年でも管理を怠れば、ただの藪になってしまう。維持管理の人手、費用はどうするつもりなのか？
- ・敷地内の広葉樹（コナラ、アラカシ、ムクノキ等）の種子から芽生えた次世代実生をモウソウチクが枯れたエリアに移植するなど、ゾーニングを行って管理しても良い。傘をさして歩ける密度で古い稈を伐採→チップ化、マルチングや近隣の畑に活用すると良い。児童・学生への総合的学習や環境教育のイベント化によりタケノコ収穫を行うとよい。
- ・地域の方々の交流の場に活用されること、地域に残る同様の樹林地への意識が高まるような波及効果を期待する。
- ・大府市が民有地を買い取って市民と里山保全に取り組もうとしている事が先進的で素晴らしいと思う。森林の無い地域で有効な取り組みで、私の住む刈谷市でも是非やりたい。四季を通じたイベントが定着していけば良いと思う。あいち健康の森公園もあり、市民が継続して関わりたいと思うイベントを作っていくことが大切で中学生有志の輪を広げられたらと思う。
- ・竹林の中に、落葉樹・常緑樹などを織り交ぜた植栽を行い、目で感じることのできる緑作りも必要である。
- ・放棄竹林の活用例として良いと感じた。その一方で、放置した場合には、すぐに元に戻ってしまうため、継続的な保全にかかる労力が大きいと感じた。市側発の竹林整備事業について、今後の保全は市民協働の体制で行うという流れが、どの程度うまく組み立てられていくか、難しそうにも感じたが、関心を持った。放棄竹林の活用例として、現場の保全管理状況や体制の構築状況などの記録を残していけると良いと感じた。
- ・上手に都市緑化推進事業の助成を活用されており、課題はこれからどうつくったものを維持、活用していくかというところになるのかなと思う。管理を市民に委ねていく構想は、難しいところも多いのは想像に難くないが、持続可能性を少しでも高めるためにはある意味必須なのかなと思うので、適切な団体とコーディネートしてあげられるとよいと思う。台数を多く停められる駐車場と作業小屋が環境学習やイベントなどにうまく使えるとよさそう。例えば、希望する市民団体に管理法などを伝授する講座や、元の地形を残した場所は子どもたちの遊び場としてとても魅力的な場所なので安全管理面、植生管理面など有識者が地域の人たちに講習や体験学習の場を開くなどができる助成を活用して創られた場がこれからも長く生きていき、よいロールモデルができていくのではと思う。

調査地② 人工林整備（次世代森林育成）施工地（豊田市坪崎町）

意見等

- ・山の管理に森税を使うのには大賛成。もっと広げて欲しい。山の管理に直接税を使えるよう、割合を変えてもいいのではないかな。ひろ～～～い山林のうち、どうしてここが選ばれたのか？ほかの地主は『知らなかった』のなら、もっと知らせめ、手をあげる山林が増えるといい。
- ・ヒノキ材を収穫する所に集落が存続していない場合にそなえ、広葉樹林化するエリアを増やしていく計画も必要かと思う。
- ・用材搬出ができない伐採木は山土場でチップ燃料化して農業ボイラへ直送利用できれば有効なのではないかな。
- ・獣害対策は様々な試行錯誤の上に行われていますが、バランスが取れていた時代と現在は何が違うのか。生態系バランスのあるべき姿と、取り戻す方策を見出す事が必要だと思う。
- ・1haあたり 1,500 本の植栽であるので、下刈り・皆伐等を計画的に進めていく必要があると思う。
- ・本施工地の様に本制度を活用した場合に採算が合いそうな人工林が、どの程度あるかが気になった。道路や地形、林齢等の条件から、そうした人工林が抽出可能であれば、それらの場所の情報を整理することは、本施工地の様な事例を増やしていくために有意義だと思った。
- ・今回視察させていただいた事業地は依頼者側の希望ですべてヒノキ植樹であると知ったが、まずは事業に理解を得て着手していくことが大切なのは重々承知の上で、やはり森林の健康度や生物多様性の観点からみても、様々な樹種が選ばれるとなお良いのではという気持ちが残る。未来の世代へ残すものとして、現役世代の希望も無視はできませんが、これからいくつか結果がみえてくる事業もあると思うので、良い結果がでればそれを参考にしてもらおうことで、その土地にあう複数の樹種が選ばれて行くような流れができていくとこの事業の意味が深化していくのではと勝手ながら思った。

調査地③ 人工林整備（間伐）施工地（豊田市葛沢町）

意見等

- ・山が、防災や治水を維持しているのなら、広報しつつ、もっと税金を投入してもいいような気がする。都市部の人をも巻き込んで、まず、関心を持ってもらうことから始める必要を感じる。
- ・豪雨災害に備えて、奥地の切り捨て間伐材が流木災害をおこさないよう今後も注意。竹が電線近くにまだ残っているので、また増えて道側に倒れてくると思われる。
- ・県と所有者、電力会社の間の連携で、ライフライン対応の森林整備を効率的に進められることを期待する。
- ・防減災の為の森林整備は上記記載の通り対処が喫緊の課題ですが、長期的には放置森林の絶え間ない手入れが必要で、経済的にもリターンを生み出せるかが肝心である。木材のカスケード利用は勿論、山側からの建築6次産業化や食料・エネルギー・木質原材料の開発、自給率向上など課題と可能性・希望は大きいと思う。
- ・国道沿いの森林整備は道路誘導などの費用が必要となり、森林整備以外の諸経費がかかると感じた。インフラ対策・防災対策において必要な事業であるので、計画的に推進してほしい。
- ・ライフラインを守っていくことは暮らしに直結しているので現場ではとてもニーズが高いのではと考えるが、都市部に住む人々にとっては見たこともない自分には関係のない世界の話になってしまっていそうである。道中切り置き間伐をたくさんみましたが、大水ができればそういったものも流されて下のほうへ移動するように、私たちの世界は実際には切り離されておらず、山林が荒れれば実際にはすべての暮らしに影響があるのだということを、税金を納める県民にもっと広く知ってもらうにはどうしたらよいのか考えていきたいところである。森と緑づくり体感ツアーのような実際に自分で見たり関わったりする取組がさらに増えていくことは、ひとつ選択肢としてあるのではないかと考える。